

ロシア極東物流調査団 派遣報告

近年、ロシア極東をはじめとする北東アジアは経済発展を続けており、
関西との経済交流・貿易拡大が期待されている。

関経連では、北東アジアの対岸にある関西の玄関港としての舞鶴港を中心とした日本海側諸港の活性化方策検討の一環として、ロシア極東と関西との貿易拡大の可能性を調査することを目的に9月8日(月)～12日(金)まで、ロシア沿海州地方のウラジオストク市、ナホトカ市に調査団を派遣した。



したロシア・欧州につながる国際物流ルートの開拓も大きな課題である。

今回の調査団は、ロシア極東の経済開発、港湾を中心とした物流インフラに関する情報を収集するとともにロシアと関西との貿易拡大やシベリア鉄道輸送の利用促進について、現地と意見交換することを大きなミッションとしたものである。

訪問先の概要

1. 沿海州地方政府

ウラジオストク市では、まず、沿海州地方政府を訪問。

同地方は、物流と交通インフラの整備が重要課題であり、多くのプロジェクトを計画中である。陸上輸送ではシベリア鉄道を活用した朝鮮半島・中国へのルートの開発を進めている。

また、2012年には、ウラジオスト

年々強まる関西とロシアとの関係

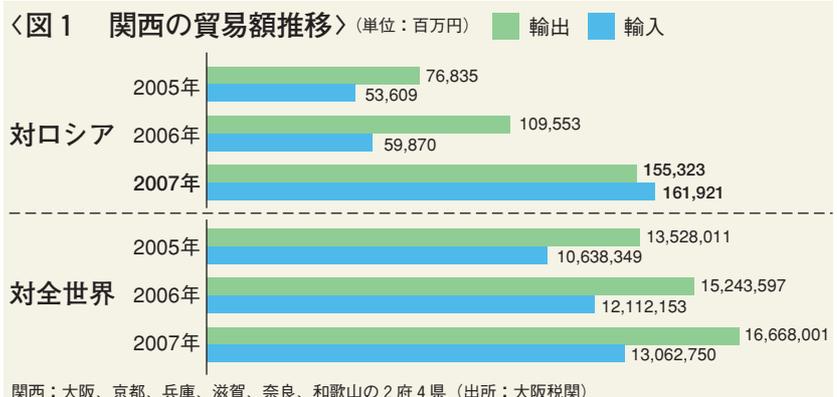
近年、関西とロシアの貿易額は拡大を続けている。2007年度と2005年度の関西の貿易額を比較すると、対全世界では輸出・輸入とも約20%の増加であるのに対し、対ロシアは、輸出で約2倍、輸入では約3倍の伸びとなっている(図1)。

また、ロシア極東の貿易相手国では、日本は中国に次ぐ2位である。日本からの輸入品目は乗用車、金属製品など。輸出品目では、原油、木材、石炭などの資源が多い。

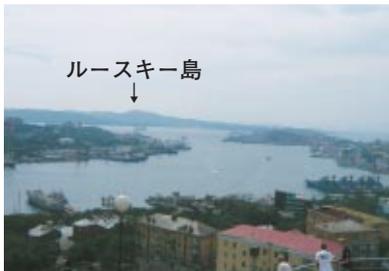
今後も北東アジアのゲートウェイ

としての位置づけが高まるロシア極東と関西の貿易拡大は双方にとって、一層、重要となることが予想される。

また、関西にとって、日本海側港湾を拠点とするシベリア鉄道を經由



クのルースキー島においてAPEC首脳会議が開催される予定。すでに島内ではホテル、水族館等の建設が計画され、市街地と島との間を結ぶ橋梁の建設もはじまっている。



ウラジオストク港



ウラジオストク市内

2. 沿海地方商工会議所

1964年に設立された同会議所は、在ウラジオストク日本総領事館と協力し、さまざまなプロジェクトを実施しており、ロシアから日本へ留学生・研修生の派遣等も行っている。

沿海州地方と日本の経済関係は貿易拡大等で強まっており、同会議所では、日本製品の保証手続等で日本企業のビジネスをサポートしている。

3. ナホトカ市行政

ナホトカ市行政では、グラドキフ第一副市長らと意見交換。同市は、沿海州ではウラジオストク市に次ぐ、第2の都市である。

大規模な石油パイプラインプロジェクトが進行しており、同市のコズミノ湾がその終着点となる予定。関連する石油精製工場の増強計画があり、2009年12月に第1期が完成。

2012年の第2期完成時には、年間生産力5,000万トンにまで機能が拡大する予定である。

同市のナホトカ港や極東最大のポストチヌイ港も視察した。ナホトカ港は日本からの輸入貨物も増えており、中古車に加え、最近は建設機械が多くなっている。

ポストチヌイ港は、時期は未定ではあるが、港湾特区にも指定される予定。指定により、通関手続きの迅速化、免税措置の拡大、特区内での貨物の加工ができるなどのメリットを享受できる。ロシア連邦政府も港の将来性に期待しており、港の拡張余地は十分にある。

また、シベリア鉄道の拠点であるナホトカ・ポストチナヤ駅も視察した。



ナホトカ市行政



ナホトカ・ポストチナヤ駅

ロシア極東地域へのアプローチ

豊富な天然資源を背景に、今後もロシア経済は成長が見込まれる。また、極東ザバイカル発展計画や2012年開催予定のウラジオストクAPEC首脳会議などから、港湾、道路・

市街地整備等の大規模な公共工事の計画がさらに進められる予定である。ロシア側としては、こうしたプロジェクトに対する日本企業の参画に強い期待を寄せている。

従来同地方では、日本車のシェアが圧倒的である。その他にも日本製の家電製品、食品などへの人気・信頼度は高い。今後は、特に富裕層に向けて、新たな需要創出をはかるための提案等も有効であろう。

一方で、政治情勢等の問題もあり、工事が計画通りに進むかは不透明な面もある。また、ロシアならではの慣習や法制度の規制・不備があり、日本企業単独での新規参入は難しい。ロシア事情に精通したパートナーの協力が必要である。

物流面では、特にポストチヌイ港は、シベリア鉄道と連携した近代的な港湾インフラが整備されており、港湾の24時間稼働も実現している。近辺のコズミノ湾に建設されるパイプラインプロジェクトが実現すれば、石油などの資源エネルギーの積み出し港としての役割も飛躍的に高まる。

課題は多いが、関西の日本海側港湾は、日本製品・商品の輸出拡大を推進するとともにポストチヌイ港への直行航路開設によるシベリア鉄道を活用した効率的な国際物流ルート開拓に向けたトライアル事業の検討が必要である。

(地域連携部 水谷忠晴)



ポストチヌイ港